

平成 30 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■東根地区：8月9日（木）午後7時30分～9時 参加者数 60名

Q. 第6次総合計画がスタートするわけだが、2020年の東京五輪後には必ず不況が来ると言われている。その点をしっかり考慮したうえでの計画づくりをしているのか。不況が来ることを前提として計画を策定していくということが非常に大切だと思う。

A. 東京五輪の開催に伴いさまざまな課題が生じると言われているが、特に平成31年10月から消費税が2%上がることは大きな課題の一つであると捉えている。

そこで町としては、国内外の情勢を十分に踏まえたうえで、本町のあるべき姿、将来像について町民の皆さんとともに作り上げる計画としていきたいと考えている。

なお、今後も座談会や各種団体・組織の方々との話し合いを通じ、さまざまな方からの意見を吸い上げ、総合計画へ反映させていきたいと考えている。

Q. 人口減少が進む中で、町の目標をどのように考えているのか。

A. 人口について、現在の日本は一極集中であることは承知のとおりである。この件に関しては避けることができない問題であり、さらに1億2千万人という日本の人口が、今後どんどん減っていくということは数値的に示されている。

そこで町では、昨年、人口減少緊急対策プロジェクトチームを設置し、先行的に実施できるものから取り組んでいる。

具体的には、人口減少の原因の分析も行なった結果、特に20～30代の若者が町外に転出しているという傾向が多く見られたことから、転出を抑制しつつ、移住者を増やすことで生産年齢人口をキープし、併せて子育てしやすい環境を整えて子どもを産んでいただくという施策を考え、実施している。

また、人口減少が進めば財政規模も小さくなることは間違いない。そのような状況で、いかに効率良く、町民サービスを低下させないようにしていくかということが町の大きな課題であると認識している。

引き続き、人口が減っていくことを念頭に置きながらも、町民の皆さんと一緒に人口減少に対応できるようなまちづくりを目指していきたいと考えている。

Q. まちづくりにはパワーが必要だが、パワーがあるのはどの年代なのかを考えたいアンケートなどをとってもらいたい。

また、人口減少が進む中で、町の推計では2040年の人口が約1万人ということだが、その中の年代別の割合を明らかにして資料などで提示していただいた方が良いと思う。そし

て計画を策定するに当たっては、その人口における平均年齢を下げていくなどの目標値を設定した方が良いと思う。

A. アンケートについては、各世帯に配布させていただいたということで、記入いただいた方については世帯主（50～70代）の方が中心だったのではないかと考えている。そのような中で、人口構成については現在の人口がスライドしていくということになるため、高齢化率も高くなっていることから70代前後がキープされていくということは否めないと思う。

また、人口については自然増減と社会増減があるわけだが、自然減ということでは東京でさえも減っているという話を聞いている。さらに、東京圏へは毎年10万人ずつ地方から人が集まっているため、社会増で首都圏は増えており、社会減で地方が減っているわけだが、地方についてはそれに自然減もプラスされるため急速に人口が減っている状況になっている。

そのような状況に対応するためのさまざまな施策があるわけだが、例えば子どもを産み育てやすいような環境づくりなど、少しでも町に残っていただけるような施策を一つひとつ積み上げていくしかないと考えている。

なお、全体の統計の数値等については、調査の内容等を町のホームページに掲載しているのでご覧いただきたい。

Q. 集落にWi-Fiスポットを設置することに賛成である。

A. Wi-Fiについては、町でもさまざまところに設置したいと考えている。まずは観光スポットなどを中心に整備を進めていきたいと考えているが、財源等の問題もあるので順を追って進めていきたい。

Q. 電波が届かないところに企業は来ない。電波がしっかり届くような電波施策をつくってほしい。

A. 電波については、白鷹町の地形的に届きにくいところがある。中継棟を建てれば解決できる問題もあると思うが、それに関しても相当な費用が発生することになるので、さまざまなメディアを組み合わせることで全体的に情報化ができるようなことを進めていくしかないと考えている。なお、引き続き検討していきたい。

Q. 今後、ビットコインなどの仮想通貨が決済としてどんどん使われる時代に代わっていく。そこで、スマートフォンなどを使って決済ができるくらい進んだ施設がどんどん増えていけば外国の観光客なども気軽に町を訪れることができると思う。

A. 決済をスマートフォンなどでできるようにするという点に関しては十分考えている。しかし、環境を整えることはできるが、町が率先して推奨できるようなものではないということをご理解いただきたい。

Q. 住まい環境の整備に関して、周囲の畜産業の関係で悪臭が漂い、地域の住環境を悪くしている。住まい環境を考えた場合の大きなマイナス要因になるということをご理解してほしい。

A. 経営されている養豚業者の方には、一つひとつ課題を見つけながら解決に向けて努力していただいている。皆さんの目には見えない部分ではあると思うが、ご理解いただきながらご協力いただきたい。

また、東根環境保全会議ということで、地域の代表者と町土地改良区、町、そして事業者で組織しながら話し合いをし、一つひとつ確認をしながら課題解決に向けて進めているところである。なお、7月12日から臭気測定ということで地域の皆さんにもご協力いただきながら、いつの時間帯に臭いがするかなどを調査させていただいた。そういった調査を一つひとつ積み重ねることで、臭いを少なくできるように努力しているので、ご理解いただきたい。

Q. 町の獅子舞の文化には特徴的なものがあると思っている。そういった伝統文化を利用しながら、まちづくりに町民も参画している生きがいのある町であるということをご計画の中に加えてほしい。

A. 地域の祭りには歴史があり、先人から受け継がれてきたものや思いを現在まで引き継いでこられたと思っている。例えば、鮎貝八幡宮においては県指定の無形文化財の獅子舞になっており、県から支援をいただきながら獅子頭の更新などをさせていただいている。

しかし、地域の祭りに町が直接手をかけるということが難しいこともあるので、地域の中で判断いただいたうえで、それぞれのコミセンに今年度から新たに設けている地域づくり推進交付金も活用いただき、後継者を育成しながら地域の貴重な文化である獅子舞を後世へと受け継いでいってほしい。

Q. クマについて、昨年も一頭駆除してもらったが、今年は親子のクマがいるようで、足跡が見つかったということが何回かあった。また、子どもたちが集団登校しているときにカモシカが出没し、子どもがその場から動けなくなってしまったということがあった。さらにイノシシが出没したという話も聞いているので、対応等お願いしたい。

A. クマ対策について、まず、獣の住んでいる空間と人間の住んでいる空間の境目がわからなくなっているということで、際の整備や山の中の間伐などを地域の皆さんと検討していかねばならないと考えている。今年は畔藤地区において、境界明確化の事業とうことで山へ入っているが、現場の話を聞くと藪が多くなっており、さらにハチが大量に発生しているようである。それらも踏まえて地域の皆さんとともに対策を考えていきたい。なお、獣が出没した際には、ただちに役場あるいは警察に連絡いただければ、町としてもできる限りの対応はさせていただくので、ご協力をよろしくお願ひしたい。

Q. 東陽グラウンドの駐車場がグラウンド南側に完成するわけだが、国道から駐車場に入ってくる箇所に右折レーンがないため、渋滞や交通事故が発生するという危険性もあるので、道路確保等がされる予定はあるのか教えてほしい。

A. 駐車場については、10月までを目途に工事を進めている状況である。国道からの侵入に関する右折レーンについては、県の担当者及び警察と協議させてもらったが、頻繁に利用されるのが土日や朝夕の時間帯がメインになると予測され、やはり実際に使われてみないとどういった対応ができるかという部分が見えないということで、今のところ右折レーンの整備については予定されていない。なお、今後正式に使用されるようになって問題が生じた場合には、対応等も検討しなければならないと考えている。

Q. Jアラートが聞こえなくて困っている状況がある。

A. Jアラートについて、完璧な情報源にはなっていないということは承知している。それを補完する方法をさまざま検討しているところであるが、今年度については「緊急メール配信サービス」を開始したので、まずはこれをご活用いただきたい。所有している携帯電話やスマートフォン、PCで登録いただければ、Jアラートで放送されている情報が確認できる。

さらに、個別受信機の整備等について、費用や電波の問題もあるが、携帯電話等を所有していない高齢者への対策という観点からも検討を進めているところである。

なお、緊急メール配信サービスについては、例えば町内にお年寄りの方がいて、町外にその方の家族が住んでいる場合でも登録いただければ白鷹町の状況等を得ることができるので、そういった利用も進めながらできるだけ適切な周知方法も検討していきたい。

Q. コミセンのトイレの洋式化と増設をお願いしたい。また、トイレの管理はコミセンの職員が行っているようだが、大勢の方に利用いただくのは土日がメインになると思うので、今とは違う体制での管理をお願いしたい。

A. コミセンの管理については指定管理料を支払っている。これに関しては、施設の管理費用と公民館時代に運営してきた部分の運営費用がある。特に施設管理費用については、その使い方について地域の中で工夫していただくということも可能なので、スポット的に管理をどこかの業者に依頼するというやり方もあると思う。その辺については、指定管理料の範囲の中で活用いただき、対応していただきたい。

Q. グランド南側に整備されている駐車場のところにトイレが設置されないと聞いているが、駐車場からコミセンのトイレまでは距離があり、場合によっては間に合わなくなってしまうこともあるかもしれないので、トイレの設置及び管理について再度検討をお願いしたい。

A. 人がいないところにトイレを設置してしまうと管理が大変になり、さらに悪戯や荒らされるということもあり、設置してからの課題もあると予想されるので、今回については駐車場にはトイレを設置しないということでご理解いただきたい。

Q. フラワー長井線については今後も残していく予定なのか。

A. フラワー長井線については、存続していこうということでずっと取り組んできた。しかし、現実的には厳しい経営をせざるを得ない状況になっている。また、そのような中で知恵を絞りながら上下分離方式で国からの助成を受けてもらうなどしているが、結果的に利用する人が減っているのも事実である。それでも、地域の高校生の足としてはなくてはならないものであると認識しているので、高校があるうちはフラワー長井線も残す方向で取り組んでいきたい。